

令和6年度

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

研究実施報告書 第1年次



宮城県中新田高等学校

○目次

1 本校の概要

- (1) 設置学科および在籍生徒数
- (2) スクール・ミッション
- (3) スクール・ポリシー

2 令和6年度研究開発の概要

- (1) 本校を取り巻く環境及び普通科改革支援事業の必要性
- (2) 普通科改革支援事業における研究開発の方向性
- (3) 普通科改革支援事業における成果概要図

3 研究開発の内容

A 学校設定教科「地域創造学」

- (1) 2学年「地域産業Ⅰ」
- (2) 2学年「地域スポーツ学Ⅰ」
- (3) 2学年「地域防災学Ⅰ」
- (4) 3学年「地域産業Ⅱ」
- (5) 3学年「地域スポーツ学Ⅱ」
- (6) 3学年「地域防災学Ⅱ」

B 「総合的な探究の時間」の取組

- 1学年「加美町プロジェクト」

C 会議関係

- (1) 学校運営協議会（コンソーシアム）
- (2) 運営指導委員会

D 先進校視察

- (1) 島根県立隠岐島前高等学校
- (2) 和歌山県立串本古座高等学校
- (3) 愛媛県立三崎高等学校

F 学校魅力化コーディネーターの配置について

4 （仮称）未来創造科の設置に向けた検討について

5 参考資料

- ◇ロジックモデル
- ◇高校魅力化評価システムの結果
- ◇Ai GROWによる生徒分析

1 本校の概要

(1) 設置学科および在籍生徒数

全日制 普通科 120名募集定員

| 学年 | 生徒数 | 類型（2学年から選択） | | |
|-----|-----|-------------|------|------|
| | | 教養総合 | 文理医療 | 商業実務 |
| 1学年 | 73 | | | |
| 2学年 | 69 | 17 | 23 | 29 |
| 3学年 | 90 | 20 | 33 | 37 |
| | 232 | 37 | 56 | 66 |

(2) スクール・ミッション

宮城県中新田高等学校は、「自主、誠実、協和」を校訓とし、キャリア教育を通して生徒の地域への理解と関心を深め、地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。また、教育課程内外の様々な場面で地域との関わりを設定し、積極的に参画することで、地域に貢献し信頼される学校を目指します。

(3) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- 「自主」：心身ともに健康を保持し、自ら学ぶ姿勢を持って目標に向かって努力を重ねる自己研鑽力を育成します。
- 「誠実」：基礎的な学力やコミュニケーション能力を身に付け、仲間や労働を大切にし、真摯な態度で社会に貢献しようとする人間性を育みます。
- 「協和」：地域や社会の変化に目を向け、その中で自らの役割を理解し、行動できる実践力を育成します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- 進路希望に応じた類型選択により、生徒のニーズに沿った学びを実現します。
→進路希望に応じて「教養総合」「商業実務」「文理医療」の3つの類型を設定し、進路希望実現に向けて適切な科目の設定を行います。
- 習熟度別の授業や選択科目を設定し、個々に適した学習を進めます。
→生徒の理解度の幅が大きい教科では習熟度別に授業を行うとともに、生徒の進路希望や学力の特性に応じた選択科目の設定を行います。
- 地域と協働し、体験的・実践的な学びを進めます。
→地域の特徴や関わり方について学習を進めるとともに、地域の発展に向けた課題の調査や解決策の模索を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

- 学習意欲があり、明確な目的意識をもって本校に入学を望んでいる生徒
- 基本的な生活習慣が身に付いており、社会的なきまりを守り、他を思いやる心を持ち、周囲と協働しながら課題解決に向けて努力する生徒
- 中学校において、「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」「部活動」のいずれかで積極的に活動した実績を持ち、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

2 令和6年度研究開発の概要

(1) 本校を取り巻く環境及び普通科改革支援事業の必要性

本校は、令和5年度に創立50周年を迎え、「自主・誠実・協和」の校訓のもと、地域に根ざし地域に貢献できる人材育成を責務としてきた。令和4年度から、文理医療類型、商業実務類型を設置すると同時に、地域に密着した学びを目指す新たな類型「教養総合類型」を新設した。この類型は、学校所在地である加美町を学びのフィールドとし、人・自然・文化・産業・観光など、地域の今を知り、地域の魅力を再確認するとともに、地域が抱える課題を見出し、地域活性化につながる方策の一端を担うことをねらいとしている。本校は近年定員割れが続いているが、学校所在地である宮城県加美郡加美町及び周辺の自治体における急激な人口減、少子高齢化が大きな要因となっており、町の活性化、人口増をいかに実現できるかが重要となっている。加美町では、基幹産業である第一次・第二次・第三次産業が町を支えているが、移住定住促進策、デジタル技術を活用して社会課題の解決を目指すDX促進等、様々な手立てを講じている。移住者による第六次産業の起業や、ドローン技術を促進する企業の誘致など、新たな動きも現れている。また、町の自然を生かした観光施設の活性化、町が推し進めるスポーツ（カヌー、ロードバイク、パークゴルフ、ボルダリング等）を生かしたイベントの充実なども、町の活性化につながる重要な役割を担っている。加美町には多様なコンテンツが存在しており、それらをいかに加美町の魅力化・特色化、そして、町の活性化につなげるかが、今、求められている。また、加美町唯一の公立高校である本校は、町の現状を踏まえ、地域課題を見出し、解決の方策を探究し、加美町を活性化させることができるような「地域に貢献する人材育成」をスクール・ミッションとしている。

地域社会に関連する新たな学科を設置することは、先進的な学びによる生徒の資質・能力の向上だけでなく、地域を愛し、地域に貢献できる人材育成に、これまで以上に寄与し、加美町の活性化と「100年つづくまち創り」につながるものと考えている。

【目的】

「100年つづくまち創り」を目標とした探究的な学びを通して、地域への思いと、地域活性化の熱意を持った人材を育成する

【育成する力】

- 自らみつけ、探究し、発信する力
- 自ら活動し、主体的に取り組む力
- 自ら考え、判断し、行動する力

(2) 普通科改革支援事業における研究開発の方向性

本校では、学校設定教科「地域創造学」において、体験的、協働的な学びを進めているが、新学科においては、より実社会に即し、地域課題解決につながるような学びが求められるため、以下のような発展的な取組を進める。

○2学年学校設定教科「地域創造学」における学びの実践

「地域産業Ⅰ（2単位）」

- ・加美町のひと・しごと・産業について、フィールドワークを通して調査探究し、ホームページで発信する「加美お仕事図鑑」
- ・加美町の課題に対する提言をまとめる「加美町提言プロジェクト」

「地域スポーツ学Ⅰ（２単位）」

- ・加美町のスポーツ資源を活用し、町が推し進めるスポーツ（カヌー・ロードバイク・パークゴルフ・ボルダリング等）の魅力を感じ、情報発信する
- ・地域スポーツイベントの運営等に携わり、地域を支える力を育成する

「地域防災学Ⅰ（１単位）」

- ・防災・減災の観点から、各個人が取り組むべき対応と課題を把握し、課題を解決していくための資質・能力を育成する。

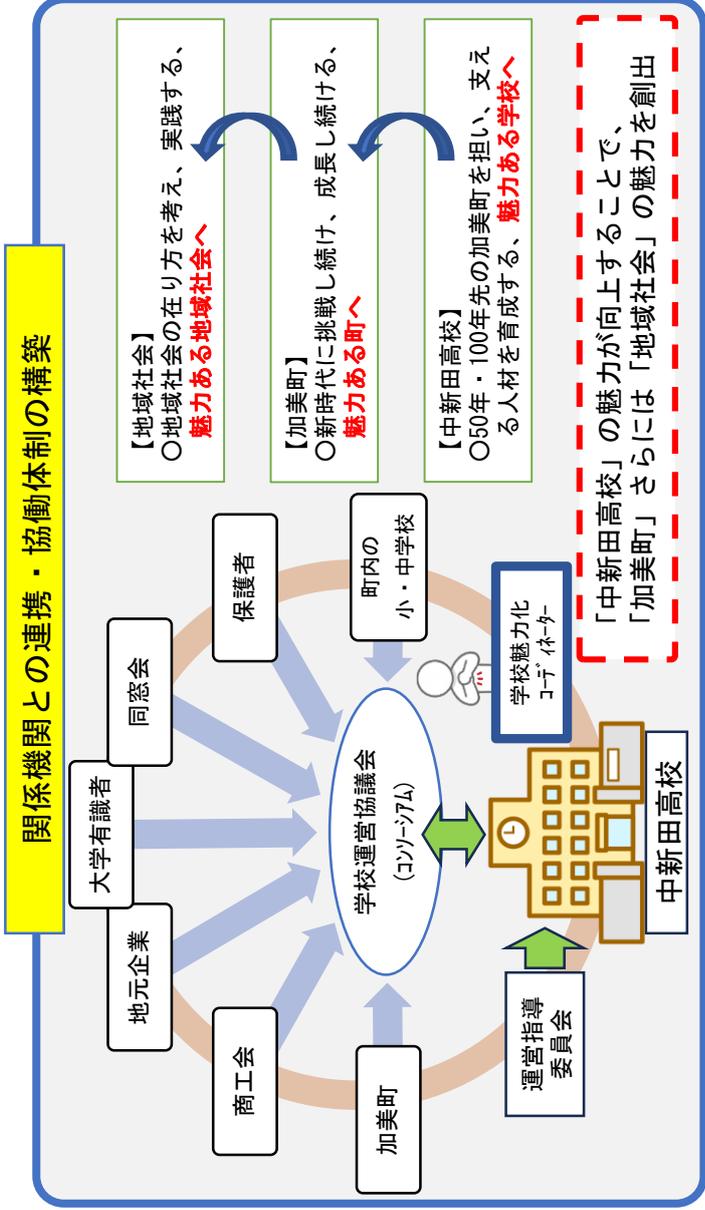
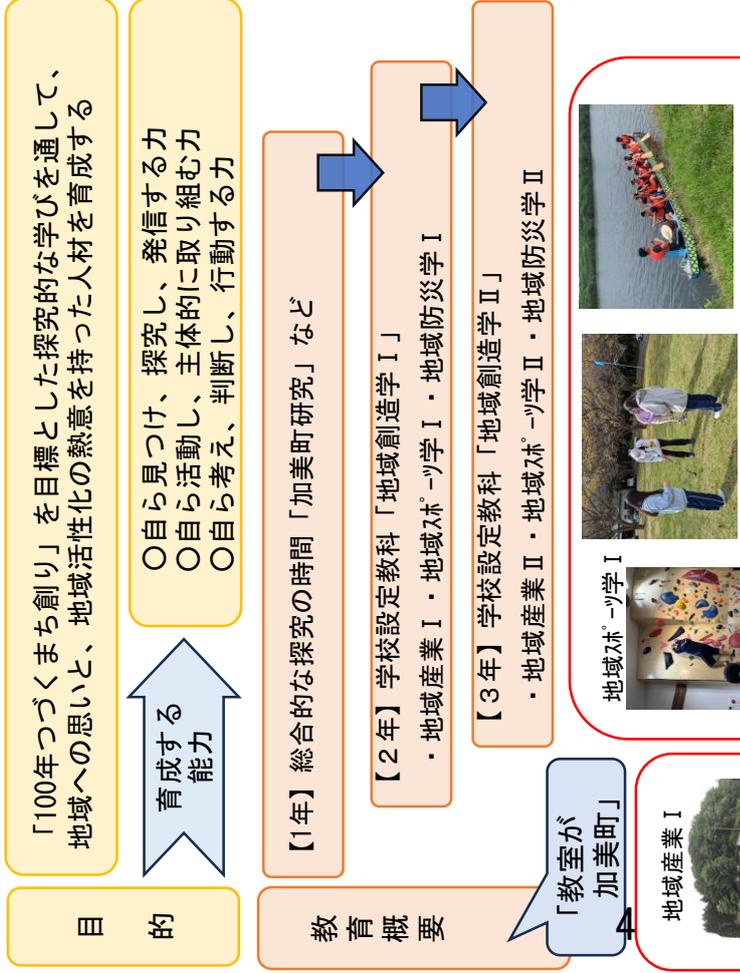
○3 学年学校設定教科「地域創造学」における学びの実践

「地域産業Ⅱ（３単位）」

- ・自らが防災について正しく理解し、それらを幼稚園・小学生に教えるためのプログラムを考え実践していく「防災意識向上プロジェクト」
- ・地域のスポーツ環境を生かしながら、スポーツイベントを企画・立案すること、また、スポーツ関連施設でのインターンシップを通して、町の活性化を考える「スポーツインターンシップ」

このような地域をフィールドとした実践的な学びを推進、発展させるためには、現在の「教養総合類型」の学びを軸として、本校普通科を「（仮称）未来創造科」へと改編することは極めて必要性が高い。普通科の中の横並びの一類型から、一段階上がった「特徴的な学科」として位置付けられることとなり、生徒・保護者・地域に本校の認知・理解を促し、地域との連携・協力関係をさらに強いものとし、ひいては本校の教育活動を一層充実させ、かつ幅広いものにすることができると考える。また、新たな学科として改編することは、カリキュラム・マネジメントの実効性と機能性を高め、本事業及び新学科開設による成果を周辺校に波及させることはもとより、同様の課題を有する全国の高校のモデルケースになっていくことができるものと考えている。

【宮城県中新田高等学校】（仮称）未来創造科（令和9年度設置（予定））



【令和6年度の目標】

- 新規取組
 - ・教養総合類型3年生において「地域創造学Ⅱ」（インターシップ・やイベントの企画・運営等多様な取組）
- 組織編成と検討
 - ・校内に「(仮)学校魅力化委員会」を設置
 - ・令和8年度からの新学科設置決定
 - ・新学科の名称等について検討
 - ・「総合的な探究の時間」等の教育課程の見直し
 - ・学校設定教科「地域創造学Ⅰ」の検証とフラッシュアップ
- 意見集約
 - ・新事業について、コンソーシアムで検討
- 視察及び研修
 - ・普通科改革支援事業実施校視察
 - ・全職員対象の校内研修会の実施

【取組状況】

- 10月に外部施設等において3つのイベントを実施
 - ・親子イベント・加イベント・お化け屋敷
- 7月に「将来構想会議」を設置して検討開始
- 12月までに学校原案を審議し県に報告
- 令和8年度の教育課程全体の見直し案を校計中
- 課題の洗い出しを行い、次年度の予定計画
- 2回の専門部会及び2回の協議会を実施
- 11月島根県立隠岐島前高等学校（4名）
和歌山県立串本古座高等学校（3名）
1月愛媛県立三崎高等学校（2名）
→改革の方向性についてテーマを定めて検討
・ワークショップ・探究指導講演会

【成果】

- 生徒の変容
 - ・肌感覚であるが、他の類型の生徒と比較して自己肯定感やコミュニケーション力、外部発力など非認知能力が向上し、学校生活において中心的な役割を担う機会増加
 - アンケート調査に加え、客観的な評価ができるよう検討を継続
- 教員の変容
 - ・地域との連携が強化された
 - ・これからの学びに即した教育課程検討開始
 - ・積極的に探究活動推進校としての認識向上

【課題】

- 外部での発信機会の少なさ
- 教科の授業や他の事業との運動性の低さ
- 探究活動に関する教員の認識の低さ
→コーディネーターへの依存性が高すぎる
- 学校全体での取組への再構築
- 学校設定教科の継続性向上に向けた取組
- 少子化による教育環境の低下に関する教員や地域の危機感の高揚が鈍い



3 研究開発の内容

A 学校設定教科「地域創造学」

(1)2学年「地域産業Ⅰ」(2単位)

| 考査 | 月 | 学習項目(単元名) | 学習内容 | 押さえるべき事項 | 評価の観点 | | |
|--------|-----|------------------------|---|---|-------|---|---|
| | | | | | ① | ② | ③ |
| 前期中間考査 | 4月 | ・探究とは? ・科目オリエンテーション | ・探究の基礎を学ぶ。これまでの学習方法との相違を意識する。 ・地域産業Ⅰの1年の流れをつかむ。 | ・探究の方法を理解している。 ・科目の活動内容を理解する。 | ◎ | ○ | ○ |
| | 5月 | 【「加美町お仕事図鑑」制作プロジェクト】 | ★加美町の産業(仕事)の特徴や働くひとの魅力、学習を通じて感じ得たものやこれからのあり方について考察し、より多くの人々に向けてそれらを発信するためのHPを制作する。 | ・産業とは何か、種類を理解している。 ・町の産業の特徴を捉えることができる。 ・HP制作を見据え、重点的に聞いたり見たりしたいことを自ら考え設定し、インタビューすることができる。 ・SDGsの17のゴールについて理解している。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 6月 | | ・産業とは何かを学び直す。 ・一次産業・二次産業・三次産業・六次産業とは何かを知る。 ・一般的な産業と加美町の産業の特徴を知る。 ・実際に産業の現場で働いている人の様子を見たり、話を聞いたりする。 ・現在の町の産業における課題は何か考える。 ・SDGsの知識を身につける。 ・SDGsの観点から、よりよい社会をつくるために現在の産業に必要な視点を考察する。 ・ノーコードを用いたHPの制作を学習する。 | ・産業とは何か、種類を理解している。 ・町の産業の特徴を捉えることができる。 ・HP制作を見据え、重点的に聞いたり見たりしたいことを自ら考え設定し、インタビューすることができる。 ・SDGsの17のゴールについて理解している。 ・SDGsの観点から、町の産業を社会でよりよいものにするための方法を考えることができる。 ・根拠のある工夫を考え、HPの制作に取り組んでいる。 ・より多くの人々の目に留まるような方法や工夫を取り入れている。 | ○ | ◎ | ◎ |
| 前期末考査 | 7月 | | ・学んだ技術を活用し、町の産業の良さなどをより多くの人々に知ってもらうためのHPを制作する。 ・制作したHPを多くの人に見てもらおうための方法を考える。 | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 8月 | | | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 9月 | | | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 | ○ | ◎ | ◎ |
| 後期中間考査 | 10月 | 【町のミッションに挑戦！プロジェクト】 | ★加美町役場の部署から与えられたミッションに対して、最適な課題解決方法を探究し、本格的に採用してもらうことを目指し、町の大人に向けて提言を行う。 | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 11月 | | ・加美町役場の各部署から与えられたミッションについて、その課題が存在している背景を学ぶ。 ・町役場関係者との話し合いを通じて、ミッションの本質を捉える。 ・これまでの学びや関係者との話し合いから、ミッションを解決するための方法を挙げる。 ・最適な課題解決方法を、仮説の設定からアクションを繰り返し行いながら見つける。 ・提言する内容を町で採用してもらうための発表を準備する。 ・探究の結果と最適なミッションの解決方法を町長を含めた町役場の担当責任者および町の大人に向けて提言発表会を行う。提言を聞いた大人からは、大人目線での意見をいただく。 | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 ・提言しようとしている内容に対して自ら仮説を設定し、PDCAサイクルを回し続けることができている。 ・提言する相手の大人が採用したくなるような内容、発表の仕方を工夫することができる。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 12月 | | | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 ・提言しようとしている内容に対して自ら仮説を設定し、PDCAサイクルを回し続けることができている。 ・提言する相手の大人が採用したくなるような内容、発表の仕方を工夫することができる。 | ○ | ◎ | ◎ |
| 学年末考査 | 1月 | | | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 ・提言しようとしている内容に対して自ら仮説を設定し、PDCAサイクルを回し続けることができている。 ・提言する相手の大人が採用したくなるような内容、発表の仕方を工夫することができる。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 2月 | | | ・担当教員からの座学を通じ、ミッションが存在する意味や背景を理解している。 ・ミッションを主体的に解決しようとし、関係者に話を聞いたり、実際に現場を見たりしようとして行動に移している。 ・提言しようとしている内容に対して自ら仮説を設定し、PDCAサイクルを回し続けることができている。 ・提言する相手の大人が採用したくなるような内容、発表の仕方を工夫することができる。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 3月 | まとめ | | | ○ | ◎ | ◎ |

「自ら課題を見つけ、その解決方法を探究し、発信する力の育成」を目指し、教養総合類型2学年が2単位学ぶ。1学年における「総合的な探究の時間」の素地をベースに、探究活動の基礎から、地元加美町の現状を知るためのフィールドワークを重ねるなどの学びを行っている。

<取組1「加美お仕事図鑑」の作成>

加美町の産業を支える企業や人に着目し、仕事の実際を知るための訪問、インタビューを行った。その取材内容については、写真とともに「加美お仕事図鑑」のウェブページを作成した。

なお、ウェブページの作成については、専門的なコードを使わないノーコードによる「Studio」を利用して、ウェブページを作成した。

取材先1:OTOMO ファーム

加美町において無農薬野菜の栽培を行い、微生物や排水など環境を常に考えて栽培を行っている。農場を実際に訪問し、農業へのこだわりを実感した。



取材先2:丸か建設株式会社

道路、河川、山林、沿岸などの整備を行う土木工事と学校等の公共施設の建設や修繕工事を行っている。本校の建設にも携わっており、本校のカヌー部の練習場である「鳴瀬川カヌーレーシング場」の整備も行っていることを知った。



取材先3:えがおのはなさくみんなのほいくえん

加美町中心部で0～3歳までの子供の保育を行っている。子供の可能性や子供の意見を積極的に取り入れる方針をとっている。内装もカフェを意識するなど、細かな工夫にあふれている。

取材先4:千恵子製菓

加美町の名物デザート「バフンケーキ」をはじめ、様々なお菓子を製作している。町内外の直売所で販売される他、ふるさと納税の返礼品としても人気になっている。



「加美お仕事図鑑」制作プロジェクト

5月から6月にかけて、取材を重ねた加美町の事業者について、「加美お仕事図鑑」というウェブページを制作するもの。令和5年度から、このプロジェクトを始め、今年度が2年目となる。昨年度は町内の5事業者について、生徒が仕事現場等を訪問し、直接インタビューを重ねながら、加美町で行われている様々な産業の実態を知るきっかけとなった。今年度は4事業者を取材し、作成につなげた。

(加美お仕事図鑑ウェブページより)



OTOMOファーム

OTOMOファームでは無農薬野菜の栽培を行っており、微生物や排水など環境のことを常に考えながら栽培を行っています。飲食店やお店にも野菜を出しており、常に手を抜かず、「少しこだわったものを食べたい」「いいものを食べたい」というお客さんが多いので要望に応えられるよう日々努めています。年配の方や子育て世代の方、中新田の保育園など多方面人々から好評を受けています。

丸か建設

丸か建設株式会社は、道路、河川、山林、沿岸などの整備を行なう土木工事で学校などの公共施設やビルなど大きい建物の建築や修繕を行なう建築工事を行なっています。加美町では町役場、図書館、消防署、警察署、学校、ダムなど多くの工事を手がけています。もちろん中新田高校の建設にも携わっています。カーブコースの整備なども丸か建設さんが行っています。
丸か建設さんは今年の3月に100周年を迎えました。

千恵子製菓

千恵子製菓は、パンケーキをはじめとしたお菓子の製作をしている企業です。作られたお菓子は加美町内外の直売所で販売されている他、ふるさと納税の返礼品にもなっています。また、パンケーキは、ミルクチョコレートやホワイトチョコレート、季節限定のイチゴチョコレート、栗などの種類も販売しております。

↑パンケーキを作らせてもらいました。とても柔らかくて作りが楽しかったです！

えがおのはなさくみんなのほいくえん

・えがおのはなさくみんなのほいくえんは、0～3歳までの子供たちを保育しています。子供たちの可能性を重視し、やってみたい気持ちを否定せず子供たちの意見を積極的に取り入れる方針をとっています。
・園内は天井が高かったり、内装もカフェを意識して作られているなど細かい工夫がされています。

<取組2 加美町プロジェクト>

「加美お仕事図鑑」の取材やウェブページ作成を通して、加美町の現状や課題、加美町で活躍する企業・大人の姿を目にしたのち、加美町について、自分の興味関心のあるテーマに沿った課題を設定し、課題解決に向けたプロジェクトを立ち上げる。最終的には企画書を作成して、次年度に実施できるようなものとする活動を行った。複数生徒によるグループ課題とし、①食、②観光ツアー、③子どもイベント、④SNS広報の4つのグループを立ち上げ、探究活動を実施した。探究活動のスケジュールおよび各グループの企画書は以下のとおりである。

| 授業日 | やること |
|---------------------|------------------------------|
| 11月14日(木) 5・6時間目 | ガイダンス・地域課題についてブレストTIME! |
| 11月28日(木) 5・6時間目 | 地域の大人の方と地域課題に関して意見交換TIME! |
| 12月5日(木) 5・6時間目 | プロジェクトの方向性を決定するTIME! |
| 12月12日(木) 5・6時間目 | プロジェクト内容を企画書に落とし込んでいくTIME! ① |
| 1月9日(木) 5・6時間目 | プロジェクト内容を企画書に落とし込んでいくTIME! ② |
| 1月16日(木) 5・6時間目 | プロジェクト内容を企画書に落とし込んでいくTIME! ③ |
| 1月23日(木) 5・6時間目 | 発表会に向けた準備TIME! |
| 2月6日(木) 5・6時間目 | 3年生と合同発表会! 企画書を発表TIME! |

加美町プロジェクト企画書

二階堂 蓮 高橋 心花
高橋 日葵 玉岡 誠人

チームメンバー:

◆プロジェクト名

加美町産ココロッケプロジェクト

◆内容 ～何をやるプロジェクト?～

- ・加美町産の肉、加美町産野菜でココロッケを作り販売する(フードロス対策で規格外品も入れる)
- ・「じゃがいも」と「さといも」のココロッケ2種類を作る(小瀬菜大根やなかにいだねぎ入り)

①加美町で食に関わる方に連絡をしてみる。プロジェクト説明と改善点をもらう

②レシビ開発、試作 →現在ここまで。

③企業の人に協力をお願い

④お店で販売する

⑤改善

⑥まったりで販売

⑦アンケートをとる

⑧学校給食・購売に出す

⑨幼稚園のイベントで販売するなど

1月30日時点

・1月18日に大人が集まる食イベントに参加し、自分たちのプロジェクトについて発表。

改善点を教えて頂いた。

・そのイベントでなかにいだねぎの農家さんと知り合い、ねぎを分けて頂いた。

・1月30日になかにいだねぎと加美町産のおだしまポークを使ったココロッケの試作

◆課題設定 ～このプロジェクトをやる理由/課題～

加美町の人も買って食べられるし、町外の人
も手軽にたべのお土産になるから

◆それをやることによって加美町はどう変化する?

- ・地産地消につながる
- ・フードロスが減る
- ・商工観光課の方からの課題、「お土産、特産品がない」を解決できるのでは?

◆実施に向けてやること

- ・レシビ開発
- ・農家の人に問い合わせる
- ・試作

◆必要なモノ・カネ・ヒト

使用する材料

おだしまポーク：地元産の酒粕を加えて独自の肉の旨味がある

なかにいだねぎ：鴨瀬川の河川敷の栽培からはじまった美味しいねぎ。たくさん分けて頂きました。

中新田産じゃがいも：試作は買ひ物

中新田産さといも：試作は買ひ物

お願ひするヒト

協力頂ける企業の人、農家の人

加美町プロジェクト企画書

高橋凜 猪股奎介
鈴木梨央 菊田結愛

チームメンバー:

◆プロジェクト名

Happy Kamiland へワクワクな世界への扉～

◆内容 ～何をやるプロジェクト?～

- ①子どもたちの遊び相手になるイベントを開催し、ワクワクする遊びを提供する
→3歳～12歳を対象にワクワクする企画を考える
例) 屋外・・・逃走中、戦闘中、雪合戦、水鉄砲合戦、キックベース、SASUKE、サッカー、野球、昔の遊び
屋内・・・折り紙、お化け屋敷、宝探し、かくれんぼ、あやとり、吹き矢、カルタ、指鉄砲 (他事例も調べてみる)
- ②最終的に1ヶ月に1回の頻度で開催する。
→子どもたちが楽しめるように
- ③さわざくら公園の敷地内やあゆの里公園でやる。
→イベントを開催する場所を事前に見に行って、どんなことができそうか考える
- ④Instagram、ポスター、回覧板、幼稚園、小学校などで宣伝する。
→開催日時や時間、場所、内容など
- ⑤時間は企画によって変える。

◆課題設定～このプロジェクトをやる理由/課題～

子どもたちが思い切り遊べる場所が少ない

◆それをやることによって加美町はどう変化する?

- ①子どもたちが時間が忘れて楽しく遊べる場所を充実させ、子どもたちの満足度を増やす。
↓
- ②この町で子育てしたいと思える大人が増える。
↓
- ③町の子どももただでなく遠くの人でも来たいと思える場所になることで、子育て移住者も増える。

加美町プロジェクト企画書

今野晴斗・本田征史郎
宮澤桜花・大石優亜

チームメンバー:

◆プロジェクト名

GHK～Good Holiday Kami～

◆内容 ～何をやるプロジェクト?～

1 加美町の観光地で観光コースを作る

- 観光コースのWebサイトを作る
- ターゲット層を決めて観光コースを作る
(ツアーチームメンバーでガイドを行う)
- 花火大会を復活させるためのお金を稼ぐ

2 SNSを利用して加美町にある観光地を宣伝する

- 加美町を宣伝するサイトを複数個作る
- Instagram, TikTok, チラシ, ポスター, 新聞, CM, TV, YouTube
- 有名人 (狩野英孝さん, サンドウィッチマンさんなど) とコラボする

3 観光コースの経由地としてイベントを行う

- 空き家を活用して、ホラー脱出ゲーム、飲食店、謎解きゲームなどを行う

全世代 (幼児から高齢者まで) 幅広い世代に楽しんでもらえるように!

◆課題設定 ～このプロジェクトをやる理由/課題～

- ★ 加美町の観光地があまり知られていない
- ★ やくらいに行く道中に観光スポットがない

◆それをやることによって加美町はどう変化する?

- ★ 賑わう町にする
(町外、県外から沢山の人が来てほしい!)
- ★ お金を稼いで花火大会を復活させる

◆実施に向けてやること

- ・加美町の観光地・空き家の場所を調べてまとめる/実際に
行ってみる
- ・宣伝方法を勉強する
- ・子供/食・イベント/SNS班とイベントで協力して宣伝する

◆必要なモノ・カネ・ヒト

- ・(モノ) PC
- ・(ヒト) 子供/食・イベント/SNS班
- ・(カネ) 空き家の内装準備、景品

古内世那 村上絢美 相澤花奈
小林璃瑠 内海匠音

チームメンバー

加美町プロジェクト 企画書

◆プロジェクト名 中高バズらせ大作戦

◆内容 ~何をやるプロジェクト?~
中学生が中高に入りたいと思える広報

- ①対面式で使った部活の紹介動画をインスタにあげる
 - ②素の生徒の様子をインスタにあげる (カメラ置いてみただけ)
 - ③今の一年生が校則を変えようとしていることを広める
- ツア一班のプロジェクトのお手伝いがあるかも 空手部にアピール
楽しそうな学校と思ってもらえるように修学旅行などの写真を載せる

中高のカヌ一部をもっとアピールする LHRの様子を載せる 協力者を増やす

◆実施に向けてやること

- ①先生に動画をもらう。動画に出る中高生に掲載許可をもらう
 - ②動画は学校のiPadで撮る。③インスタに校則を変えようとしてることをあげていいか許可をとる。④校則をどう変えるか一年生に聞く
- ◎先生にSNS班用のアカウントを作ってもらおう。

◆課題設定 ~このプロジェクトをやる理由ノ課題~
制服がダサい 偏差値が低い 中高のホームページの内容が硬いインスタの投稿の内容が素の日常じゃない

↓
中高が中学生から選ばれにくい

◆理想的な状態

中高の生徒数が増えて地域の経済が回る

お世話になってる企業さんが寄付してくれる理由の一つに中高の卒業生の頑張りがある。→中高生が増えれば自主的な活動を継続でき、寄付してくれる企業さんが増えるかも。

◆必要なモノ・カネ・ヒト

ヒト 教頭先生、菅原先生とか
モノ 個人のiPad

○「加美町プロジェクト」を終えての生徒の感想より

- ・自分たちでプロジェクトを考えて、それを形にしていく、自分たちで組み立てていくということが他の授業では経験できないことなので、高校生のうちにこういったことを積極的に経験させてくれる環境はありがたいと思いました。授業を通して加美町のことが大好きな人達と関わることで街に少しでも貢献したいという思いがよりいっそう強くなりました。
- ・「加美町プロジェクト」を行っていくという、後期期末の授業内容で、最初はどのような感じで行うのかもわからなかったし、班のメンバーともこれまでなかなか話す機会がなかったので、不安がたくさんあったが、やっていくにつれてテーマに沿った課題を出し、ゴールを決め、具体的なプロジェクトを考えていくということの楽しさを覚えて、積極的に活動できた事はとても良かったのではないかなと感じた。多くの時間を加美町で過ごしてきたが、このように課題について考えたことがなかったので、今期の授業でここまで深く考えることができ、実践の1歩手前という企画書まで作り上げることができたのは、とても良いことだなと感じた。プロジェクトについて悩んでしまう機会が多かったため、なかなか話し合いが進まなかったり、企画書を作り上げるところまで行くのかなと言う不安があったりしたが、たくさんの人に助けってもらってここまで行うことができてよかった。今回の経験を経て、町のために何かするということはとても楽しいことだなと感じた。楽しさを学ぶことができたからこそ、将来にもしっかり活かしていきたいなと感じた。気になる点や改善してほしい点は特になく、良い授業の形で、自分自身の学びにつながった。
- ・授業を通して私は、大人の方とのコミュニケーションを取ることが成長することが出来たと思う。前の食のイベントでは、自分からあまり話せず質問に対しても止まってしまったりしてしまっていたが今回の加美町プロジェクトでは、自分から話すことが多く出来たと思う。しっかりとグループで共有されていたため困ることはあまりなかったのは成長だと感じた。そして数を増やすことでこうした方が聞き取りやすいかなど考えることが出来た。ゆっくり相手に聞き取りやすく話せたと思う。

(2)2学年「地域スポーツ学Ⅰ」(2単位)

「自ら活動し、主体的に取り組む力の育成」を目指し、教養総合類型2学年が2単位学ぶ。本校の西側に流れる鳴瀬川には、国体やインターハイを開催した「鳴瀬川カヌーレーシング場」があり、地元加美町はカヌー競技の普及に力を入れている。豊かな自然を生かし、サイクルロード、パークゴルフなどがあり、加美町のスポーツ資源を活用し、スポーツによる地域振興を考えるのが、この科目である。2学年においては、地域スポーツの体験を主軸として、授業を展開している。

<取組1 カヌー・ドラゴンカヌー>

カヌーの授業は6回実施。【4月23日(火)、5月28日(火)、6月11日(火)、6月25日(火)7月9日(火)、8月27日(火)】本校の体育科教諭(カヌー部顧問)が指導者となり、一人乗りカヌー・二人乗りカヌーを中心に、カヌー艇の取扱やパドルワークなど基本的なことから、実践を踏まえて授業を行った。初めはカヌー艇に乗り込むことに困難が見られた生徒たちだが、バランスを取りながら徐々にカヌー艇に慣れていく様子が見られた。加美町では、十人乗りドラゴンカヌー大会が開催されており、生徒たちも出場できるよう、ドラゴンカヌーにも挑戦した。10人で息を合わせて漕ぎ進める必要があり、チームワークの大切さを実感する時間となっていた。(なお、実際に大会にエントリーしたが、台風の影響のために延期となり、出場は果たすことができなかった。)加美町が推し進めるスポーツである「カヌー」の魅力を大いに実感する授業となっていた。



<取組2 ロードバイク>

ロードバイクの授業は6回実施。【9月3日(火)、10日(火)、17日(火)、10月1日(火)、8日(火)、15日(火)】長谷川雅也氏(スポーツバイクショップBRENDA)を講師に招き、スポーツロードバイクの取扱、乗り方等の講義を含め、実際に鳴瀬川沿いのサイクルロードでの実践授業を行った。普通の自転車とハンドルの形状、タイヤの違い等に戸惑いながらも、ロードバイクに乗ることの楽しさを実感することができた。生徒たちはロードバイクに乗りながら、加美町の自然の豊かさや景色の素晴らしさも実感することができ、加美町の魅力を再発見する時間となった。雨天時には、長谷川氏が用意したロードバイクに関わるペーパー試験も行うなど、知識・技術の向上に努めていただいた。



<取組3 パークゴルフ>

加美町にある「ふれあいの森公園パークゴルフ場」を会場に、パークゴルフを2回体験した。【10月22日(火)、29日(火)】加美町パークゴルフ協会の会員を講師に招き(会長:米木正二氏)、ルール、クラブの取り扱い等、パークゴルフの基本を丁寧に教わった。初めてパークゴルフに触れる生徒多かったが、本校生徒と協会会員が1つのパーティとしてコースを回り、生徒だけでなく、講師の方々も楽しみながらプレーすることができたようである。



<取組4 ボルダリング>

ボルダリングの授業は4回実施【11月19日(火)、12月10日(火)、1月14日(火)、21日(火)】加美町にある「ボルダリングパーク やくらいWALL」を会場に、ボルダリングの授業を実施した。生徒の中には、何度もボルダリングをしたことがある生徒もいる一方、まったくの初心者も多く、講師から丁寧な説明を受けながら、ボルダリングに挑戦した。(講師：むらかみ みちこ氏 特定非営利法人 FARST ASCENT JAPAN)



<取組5 町のサイクルイベント「ツール・ド・347」へのボランティア参加>

(ツール・ド・347について)【2024年6月23日(日)開催】

宮城・山形の県境をまたぐ国道347号線をコースにした加美町が主催するサイクルイベント。加美町をスタートし、山形県尾花沢市を經由し、大石田町を折り返し、加美町まで戻るロングコースは約120キロ。ショートコース(約47キロ)、パラチャレンジコース(約25キロ)もある。参加者は約200名。国道347号沿いの自然を体感しながらのロードバイク、エイドステーションでは地元の味を提供し、人との関わりのあるアットホームなサイクルイベントである。

(生徒たちのボランティア参加について)

ツール・ド・347実行委員会からイベント当日における大会運営の依頼を受け、2年生教養総合類型の生徒17名がボランティアとして参加した。地域スポーツ学Iの授業時に、運営に携わっている加美町商工観光課職員を講師に招き、イベント自体の説明、スポーツイベントを開催する意義、面白さ等についてを知ったうえで、選手をゴール地点でいかに迎えるかを考えた。自分たちでデザインした小旗を制作し、小旗を振りながら選手を激励することとなった。また、ゴール地点では、「ツール・ド・347」イベント自体についてのアンケートを実施すること、選手たちにゴール記念のメッセージをホワイトボードに書いてもらうこと、参加賞抽選のお手伝い、豚汁をふるまうなどの部署に分かれて、活動を行った。当日は雨天で、寒さを感じるころであったが、生徒たちが出迎えるゴール地点は、活気があり、雰囲気盛り上げるのに一役買っていた。スポーツイベントがどのように運営されているかを実際に肌で感じる事ができる貴重な機会となった。



学習指導計画

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

| 考査 | 月 | 学習項目(単元名) | 学習内容 | 押さえるべき事項 | 評価の観点 | | |
|--------|-----|-----------------------------------|--|--|-------|---|---|
| | | | | | ① | ② | ③ |
| 前期中間考査 | 4月 | 1 地域スポーツ総合演習Ⅰ (1)実技①「カヌー基礎Ⅰ」 | ・カヌー(レジャー艇)の構造及び名称、乗降艇、パドルワーク(基本動作)など、カヌーの基礎的な知識を理解する。 ・カヌーを扱う基本的な動作を実践し、身に付ける。 | ・カヌーの構造及び名称を理解している。 ・カヌーを扱う基本的な動作を理解している。 | ◎ | ○ | ○ |
| | 5月 | (2)講習①「水難事故防止対策Ⅰ」 | ・専門家による講習を通して、河川活動をする上で、注意するポイントを理解する。 ・生徒自身の水難事故や水難者に遭遇した際の対処法の知識を身に付け、水難事故防止についての理解を深める。 | ・安全に実習する態度を養う。 ・転覆などの対応を迅速に行えるようにする。 | ◎ | ○ | ○ |
| | 6月 | (3)実習①「スポーツイベント運営実習Ⅰ」 | ・加美町で行われる「ドラゴンカヌー大会」「ツール・ド・347」について、その競技ルールや準備等の運営の実際を理解する。 ・大会実施に向けた準備や宣伝広報等に携わり、大会を成功させるための工夫を考える。 | ・加美町で行われる「ドラゴンカヌー大会」「ツール・ド・347」に主体的に参加し、運営に携わろうとする。 | ○ | ◎ | ◎ |
| 前期末考査 | 7月 | (3)実習①「スポーツイベント運営実習Ⅰ」 | ・大会当日の運営補助に関わり、スポーツを通じた地域交流の仕組みを理解する。 ・イベント参加者に対しアンケート調査を実施する。 | ・スポーツの「する」「みる」「支える」など、様々な立場から関わろうとする。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 8月 | (4)実技②「カヌー基礎Ⅱ」 | ・カヌー(スプリント艇)の構造及び名称、乗降艇、パドルワーク(基本動作)の知識と動作を理解する。 | ・カヌーを扱う基本的な動作を実践できる。 | ◎ | ○ | ○ |
| | 9月 | 2 地域スポーツ総合演習Ⅱ (1)実技③「ロードバイク基礎」 | ・ロードバイクの構造及び名称、乗降、ペダルワーク(基本動作)など、ロードバイクの基礎的な知識を理解する。 ・ロードバイクを扱う基本的な動作を実践し、身に付ける。 ・地域で走行する際の危険箇所を認識し他者へ伝えることができる。 | ・ロードバイクの構造及び名称、乗降、ペダルワーク(基本動作)など、ロードバイクの基礎的な知識を理解している。 | ◎ | ○ | ○ |
| 後期中間考査 | 10月 | (2)実習②「スポーツイベント運営実習Ⅱ」 | ・加美町で行われるスポーツイベント「SEA TO SUMMIT」について、その競技ルールやイベントの実際、意義を理解する。 ・イベント実施に向けた準備や宣伝広報等に携わり、大会を成功させるための工夫を考える。 | ロードバイクに関わるスポーツイベントに主体的に参加し、運営に携わろうとする。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 11月 | (3)実技③「パークゴルフ基礎Ⅰ」 | ・パークゴルフの用具及び名称、ルール、エチケットなど、パークゴルフの基礎的な知識を理解する。 ・パークゴルフの基本的な動作を実践し、身に付ける。 | ・パークゴルフの基本的な動作を実践できる。 | ○ | ◎ | ◎ |
| 学年末考査 | 12月 | (4)実技④「ボルダリング基礎Ⅰ」 | ・ボルダリングの用具及び名称、ルールなど、ボルダリングの基礎的な知識を理解する。 ・ボルダリングの基本的な動作を実践し、身に付ける。 | ・ボルダリングの基本的な動作を実践できる。 | ○ | ◎ | ○ |
| | 1月 | (5)実技⑤「スノースポーツ基礎Ⅰ」 | ・スノースポーツ(雪合戦・スノーシュー・クロスカントリースキー等)の用具及び名称、ルールなど、スノースポーツの基礎的な知識を理解する。 ・スノースポーツの基本的な動作を実践し、身に付ける。 | ・スノースポーツ(雪合戦・スノーシュー・クロスカントリースキー等)の基本的な動作を実践できる。 | ○ | ◎ | ○ |
| | 2月 | (6)演習「スポーツイベント運営実習Ⅲ」 | ・加美町で行われるスポーツイベント「宮城県雪合戦大会」について、その競技ルールやイベントの実際、意義を理解する。 ・イベント実施に向けた準備や宣伝広報等に携わり、大会を成功させるための工夫を考える。 | スノースポーツに関わるスポーツイベントに主体的に参加し、運営に携わろうとする。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 3月 | まとめ | ・1年を振り返って加美町の理解を深めたところや、自分自身の成長となったところを振り返り、まとめる。 | ・スポーツを通して加美町の理解を深め、自分自身の成長を振り返る。 | ○ | ◎ | ○ |

(3)2学年「地域防災学Ⅰ」(1単位)

地域における自然環境の特徴と想定される自然災害について学び、防災・減災の観点から各個人から地域が取り組むべき対応と課題を把握し、その課題を解決していく力を育成する学校設定科目である。2学年「地域防災学Ⅰ」においては、体験を通して、防災意識を高めることを主眼においており、加美町危機管理室、陸上自衛隊、加美消防署、加美町社会福祉協議会から講師を招き、多様な学びを提供してきた。

【簡易トイレ製作体験（講師：自衛隊）】



【応急処置体験（講師：自衛隊）】



【毛布を使った担架体験】



学習指導計画

【評価の観点】①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度

| 考査 | 月 | 学習項目(単元名) | 学習内容 | 押さえるべき事項 | 評価の観点 | | |
|----------------|----|--|---|---|-------|---|---|
| | | | | | ① | ② | ③ |
| 前期 中間 考査 | 4 | オリエンテーション 1 地域防災学の学習内容について | ・1年間の学習内容と学習意義を理解し、各自の学習目標を設定する。 | ・学習内容と意義を理解したか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 5 | 2 日本と加美町地域の自然環境と災害の種類 | ・日本と加美町周辺地域の自然環境の特徴を学び、想定される自然災害の種類について学習する。 | ・加美町周辺の気候と自然環境と災害について理解できたか。 | ◎ | ○ | ○ |
| | 6 | 3 様々な自然災害と防災 A 気象災害と防災 B 地震災害と防災 C 様々な災害と防災 | ・気象災害が発生する原因と現状について学ぶとともに防災について様々な情報から多面的に考察する。 ・地震災害が発生する原因と現状について学ぶとともに防災について様々な情報から多面的に考察する。 ・加美町周辺地域で過去に発生した災害についてその原因と現状について学ぶとともに防災について様々な情報から多面的に考察する。 | ・気象災害の発生と現状、その防災について理解できたか。 ・地震災害の発生と現状、その防災について理解できたか。 ・加美町で過去発生した災害について原因と現状について理解できたか。 | ◎ | ○ | ○ |
| 前期 期末 考査 | 7 | 4 減災への取組 A 減災の定義 | ・防災対策と対比させながら、減災の定義と実際の取組について学ぶ。 ・講義については、加美町危機管理対策室による外部講師を活用するものとする。 | ・減災の定義と実際の取組について理解できたか。 | | | |
| | 8 | B ボランティア | ・ボランティア活動の基本的な取組とその実例について、探究活動を通して学ぶ。 ・講義については、加美町社会福祉協議会による外部講師を活用するものとする。 | ・ボランティア活動の基本的な取組及び実例について理解できたか。 | ○ | ◎ | ○ |
| | 9 | C 避難所運営 | ・避難所の開設とその運営の基礎について学び、その実際について運営上の課題を把握する。 ・講義については、加美町危機管理室による外部講師を活用するものとする。 | ・避難所の開設とその運営について運営上の課題とともに理解できたか。 | | | |
| 後期 中間 | 10 | 5 災害時の対応 A 衣・食・住 | ・災害時の衣食住に関わる留意点に着目し、生活維持の工夫と技術を学び、実践できるようになる。 | ・災害時の衣食住について探究活動を通して理解できたか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 11 | | | | | | |
| | 12 | B 災害対応のまとめ | ・災害時対応について災害に応じた対応を学ぶ。 | ・災害時の対応について探究活動を通して理解できたか。 | | | |
| 後期 期末 | 1 | 6 探究活動 (プレゼンテーション) | ・これまでに学んだ既習事項について、課題を設定し、解決のための行動しまとめ発表する。 | ・これまでの学習内容についてまとめ、報告できたか。 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 2 | | | | | | |

(4)3学年「地域産業Ⅱ」(3単位)

3学年「地域産業Ⅱ」においては、2学年「地域産業Ⅰ」で実践・考察してきた加美町の産業やまちづくりの知識・技能をもとに、次のような目的をもったより主体的な活動に取り組んだ。

- 探究的な活動を繰り返しながらまちの賑わいを創出するための事業を考案・実践したり、それぞれの生徒が発揮したいスキルや能力・経験を生かしたりしながら「新しい仕事創り」を行う。
- 学習したSDGs等の知識を生かし、未来型で持続可能な事業提案を行うことで、将来の産業のあり方について予測しながら実践し、主体的な態度で未来型の事業を生み出す。

生徒の探究活動実践の場として、加美町の中心を担う旧中新田町に位置する『さわざくら公園』の敷地および敷地内に所在する古民家「旧墨絵美術館」をフィールドとした。生徒たちの興味関心を持つ分野として、以下の5グループに分かれ、「100年つづくまち創り」を実現する一歩となるイベントを考え、準備を進めていった。

- 1 子ども遊びイベント
- 2 子どもスポーツイベント
- 3 飲食イベント
- 4 お化け屋敷
- 5 高校生カフェ

本プロジェクトの1年間の大まかな流れは以下の通りである。

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| I期(4~5月) | プロジェクト構想、事業計画作成 |
| II期(6~8月) | 地域の子どもや保護者にアンケートを実施し、イベントを企画、開催準備 |
| III期(9~10月) | 集客数100人、近隣の子ども、保護者をターゲットにしたイベントの実施 |
| IV期(11~12月) | 実施したイベントを振り返り、今後につながる新たな企画立案 |

イベントについては、以下の日程で実施した。

- 1) 令和6年10月5日(土)親子まったりいべんと①(遊び・飲食・カフェ)
- 2) 令和6年10月14日(月祝)かみフェス(スポーツ)
- 3) 令和6年10月19日(土)親子まったりいべんと②(遊び・飲食・カフェ)
- 4) 令和6年10月26日(土)事故っちゃった物件へようこそ(お化け屋敷)

作成したカフェのロゴ



親子まったりイベント

①10/5(土)10:00-15:00
②10/19(土)10:00-15:00

イベントの内容

中新田高校では「地域創造学」として地域を学びの場とした授業をしており、3年生は「さわざくら公園」内の「旧墨絵美術館」を拠点に、にぎわいを生み出そうと活動しています。今回、その取り組みの1つとして、親子の新たな居場所づくりを目的としたイベントを行います！来場された方に「まったり」「楽しい」「チルスボット」と感じてもらえたらうれしいです。

場所

さわざくら公園内旧墨絵美術館

子どもイベント



「お誕生日とお子さんと遊ぼう！」

cafe lapsi



「お茶は、かっくりくついで！」

焼きそば SUSURU



「小腹が空いたらさっし！」

・子ども1人200円
(全ブース遊べます。)

・ボールプール

・ボールすくい

・射的ゲーム(お菓子)など

・チーズケーキ 200円

・ガトーショコラ 200円

・ゼリー 200円

・クッキー 200円

・飲み物

トコヒー 100円

ト紅茶 100円

トオレンジジュース 100円

トリンゴジュース 100円

・1パック150円・2パック200円

・トッピング

ト目玉焼き 30円

トチーズ 30円

トカツオブシ 30円

トキムチ 30円

ト紅生姜 30円

トマヨネーズ 30円

トウインナー 50円

ト青のり 10円

トカレー粉 20円

※料金は全て予定価格となっています。

宮城県中新田高校 担当：3年教養総合類型 Mail: t-hamamoto@foundingbase.jp / TEL: 0229-63-3022

入場料は無料です！ 入退場自由となります。お気軽にお越しください！

場所

旧墨絵美術館

〒981-4252
宮城県加美郡加美町字西田一番33



墨絵美術館とは？
昭和62年、加美町出身の墨絵画家墨雪(河合健雄)1901-1988より自身の作品の寄贈を受け、加美町(旧中新田町)に「墨雪墨絵美術館」が開館。古民家を移築した館には、多くのお客様が訪れていただきましたが、建物の老朽化により平成29年に閉館となりました。

↓

中新田高校の生徒で復活させる！！

様々なイベントや飲食スペースを企画・運営。加美町の賑わい作りの1つの起点となるように、皆様の方々と一緒に動きます！！イベントも兼ね、試行錯誤しながら頑張る。良いイベントとなるように継続していきます！

地図



- 駐車場
- 旧墨絵美術館
- 加美町役場

加美町役場の駐車場にお止め頂き(砂利の駐車場)西側よりさわざくら公園を渡ってイベントも兼ね、試行錯誤しながら頑張る。良いイベントとなるように継続していきます！(徒歩約5分)

宮城県中新田高校 担当：3年教養総合類型 Mail: t-hamamoto@foundingbase.jp / TEL: 0229-63-3022

入場料は無料です！ 入退場自由となります。お気軽にお越しください！



地域創造学(地域産業Ⅱ)イベント企画書

| | | |
|--------------------------|---|--|
| イベント名 | カフェ経営 | |
| イベントの目的 | 地域のファミリー層をターゲットに、子ども達とその親が楽しめるカフェと子どもイベントを開催する。加美町内にはゆっくりくつろげるカフェが少ないので、場の提供をするとともに、中新田高校生の活動を知ってもらう機会とする。 | |
| イベント内容 | 親子でくつろげる古民家カフェの営業。 メニュー ガトーショコラ、チーズケーキ、カルピスゼリー、コーヒー、ジュース等 「子ども食堂等の営業許可」で申請したものであるため、利益を求めない原材料費に近い金額での販売となる。子どもイベントとの同時開催で利益を確保したい。 | |
| ターゲット | 近隣の保育園や幼稚園に通う子どもと親 | |
| 目標集客数 (1回あたり) | カフェ利用 30 人(一人 300~500 円) | |
| 開催日時 | 令和 6 年 10 月 5、19 日(土)(10:00)~(15:00) | |
| 当日の日程 (集合から解散までの主な日程) | 前日までに古民家の冷蔵庫にケーキ類を搬入。(当日必要な場合は遠藤が搬入) AM8:30古民家集合 ↓ 開店準備 ↓ AM10:00営業開始 ↓ PM13:00営業終了 ↓ PM15:00撤収 | |
| 開催までのスケジュール | いつまでに | 何をするか |
| | 7 月 | カフェメニューの決定 試作 購入品の確認 看板の準備(猪股里音から借用) 冷蔵庫の確保(猪股里音から借用) |
| | 8 月 | チラシ作成 夏休み中に各自調理試作 |
| | 9 月 | 座布団洗濯 看板作成 冷蔵庫搬入 営業に向けての店舗作り メニュー表作成 |
| | 10 月 | イベント実施 |

カフェイベント 進行スケジュール

4～6月

準備期間

- プロジェクト構想の立案
- ・保健所への営業許可取得準備
 - 必要事項の調査
 - 保健所に見せる資料の作成
 - 営業許可の取得手続き
 - ・カフェの基本設定
 - 名前の決定
 - メニュー案の作成

7～9月

計画具体化

- 試作品の開発
- ・備品制作
 - ステッカーや食券の作成
 - ・環境整備→さわざくら公園の視察/カフェ内装デザインの決定/
調理場の配置検討/不要品の移動・整理
法的・業務関連の手続き/開業届の提出
食品衛生責任者や飲食店営業責任者の資格取得開業届の提出
 - ・マーケティング・分析→親子連れが好む特徴の調査
食品衛生責任者と調理場と客室スペースの仕切り設置
 - ・設備チェック→調理場と客室スペースの仕切り設置
手洗い場所や水回り設備の確認/全体照明の調整
 - ・施設整備→古民家の清掃
 - ・購入作業→必要な物品の買い出し

10～11月

試験営業

- ・本番1回目(10/5)の実施と振り返り
- ・本番2回目(10/19)の実施
反省と次のステップ
- ・全体反省会の実施
- ・次のアクションの決定
- ・教頭先生への提案の準備と実施
- ・プロジェクト報告書・動画の作成

企業名 | Cafe Lapsi

カフェのメニュー



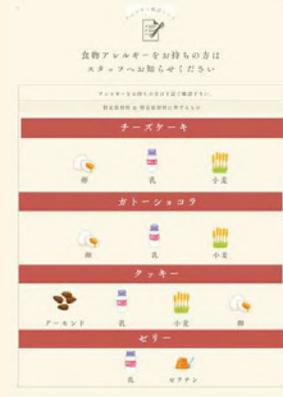
このメニューにした理由

- ・作り方が簡単で保存もできる
ガトーショコラとチーズケーキ
にしました。
- ・小さい子どもでも食べやすいよう
にゼリーを、お持ち帰りしやすい
クッキーを準備しました。

- ・お皿は美術陶芸部に頼み約30
枚作ってもらいました。

- ・アレルギーがある人でも安心
できるようにアレルギー表示も
作成しました。

- ・メニュー表と食券、アレルギー
表示はCanvaで作成しまし
た。

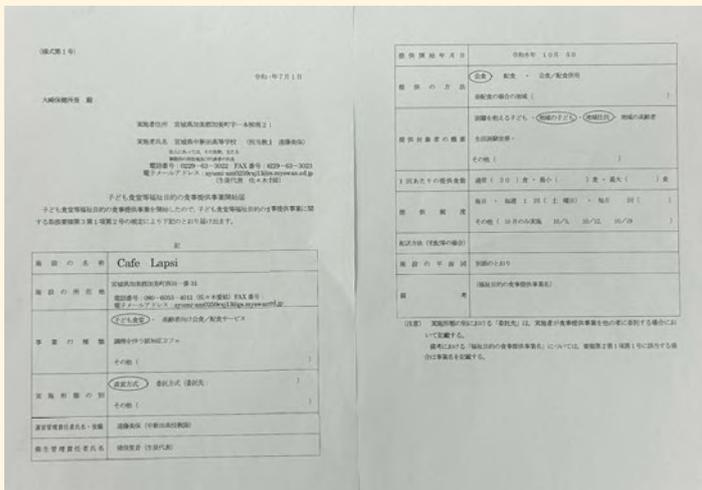


企業名 | Cafe Lapsi

保健所に許可を取るまでの流れ

カフェの営業を目指して準備を進めていきましたが、保健所から設備が不十分との指摘を受けました。しかし、子ども食堂として運営する場合は現状の設備でも問題ないとのことでした。そのため、方針を子ども食堂に切り替えました。衛生責任者が必要との指摘を受け、現在は仮の状態ですが、カフェとして正式に営業する際には正式な衛生責任者の設置が必要です。営業許可

https://www.pref.miyagi.jp/documents/23308/766826_1.pdf



企業名 | Cafe Lapsi

反省・改善点・結果

4～6月 準備期間

反省点

- ・試作期間が少なかった
- ・価格設定をするのに手こずった

改善点

- ・試作段階を早めに行い、回数を増やして改善点を探す。
- ・原価を計算し、無駄を減らす工夫をする。

7～9月 計画具体化

反省点

- ・古民家内の動線を確保することができなかった。

改善点

- ・もっと早く部屋にあった動線・レイアウトを考える

10～11月 試験営業

反省点

- ・授乳室を使わなかった。
- ・カフェの受付がわかりにくかった。

改善点

- ・二回目の試験営業からは授乳室を撤去して個室にした。
- ・二回目からは受付を分かりやすくするようにした。

企業名 | Cafe Lapsi

まとめ



このプロジェクトを通して得たこと

- 親子の絆を深める機会
- 地域文化の再発見
- 古民家活用の可能性



達成できたこと

- 2日間で来客者数260人超え・1日30人超えで収益36000円
- 子連れの親御さん方が気軽に立ち寄れる場所・息抜きできる場所を提供することができた



これから行う皆さんに達成してほしいこと

- イベントを定期的に行う
- 他の空き家を利用してイベントを行う
- 年中通してできる設備を作る

企業名 | Cafe Lapsi

事故っちゃった物件へようこそ

柳川華楓 曾田美歩 熊谷愛里音
坂野星來 佐藤爽花 早坂愛菜

企画書

全体スケジュール

| 日時 | やること | 備考 |
|------------------|--------------------------------|---------------|
| 4月11日(木) (本日) | ・オリエンテーション、さわざくら公園・古民家見学 | |
| 12日(金) | ・プロジェクト・ブレインストーミング(個人・チーム) | |
| 18日(木) | ・プロジェクト構想・企画書下書き | |
| 25日(木) | ・プロジェクト決定・ミニ発表会 ※途中で増えるのは大いにある | |
| 5・6月 | ・準備、テスト運営、検証 | |
| 7月～ | ・プレ運営(Ⅰ期)開始 | |
| 8・9月 | ・検証期 | |
| 9～11月 | ・Ⅱ期 | |
| 11～12月 | ・Ⅲ期 | ★12月は水運が止まります |
| 1月 | ・決算報告会準備・実施 | |

目標:

1. 地域産業Ⅰで実践・考察してきた加美町の産業やまちづくりの知識・技能をもとに、加美町の中心を担う旧中新田町に位置する『さわざくら公園』の敷地および敷地内に所在する『旧墨絵美術館』をフィールドとし、探究的な活動を繰り返しながらまちの賑わいを創出するための事業を立案・実践したり、それぞれの生徒が発揮したいスキルや能力・経験を生かしたりしながら「新しい仕事創り」を行う。
2. 学習したSDGs等の知識を生かし、未来型で持続可能な事業提案を行うことで将来の産業のあり方について予測しながら実践し、主体的な態度で未来型の事業を生み出す。

プロジェクトタイトル・概要

事故つちやった物件へようこそ

日程 10月26日 14:00～17:00
場所 さわざくら公園の古民家

このプロジェクトは 営利 ・ 非営利

想定される利益: 入場料100円 10,000円目標

プロジェクトの理想状態

※自分や社会(まち)にどう生かされるのか明確にする

- ・加美町への貢献
親子で遊べる場所を作ること、加美町をより多くの人に知ってもらえる機会になり加美町に来てくれる人が多くなる。また、加美町に魅力的な場所が増えることで加美町から離れる人も少なくなると。加美町に話題が集まりSNSで拡散が予想される。
- ・施設の再利用
今まで使ってこなかった古民家を再利用することによって加美町の空き家数が少なくなると費用も抑えられる。古民家の古き良き素材が活かされる。

プロジェクトの目的・背景

- ・目的
さわざくら公園に人を呼ぶため。
小学生や中学生の子供がいる親子で楽しめる環境を作る。
加美町のイベントを増やすため。
- ・背景
古民家を見た時に雰囲気があったし、公園に子供が集まるから。
加美町にテーマパークなど遊ぶ施設がないから。
加美町を話題のある町にしていきたいから。

現状

※「まち」「人」「にぎわい」等さまざまな視点で捉えること

- 現状
 - ・少子高齢化
 - ・賑わいが少ない
 - ・遊ぶ施設がない(親子で遊べる場所)
 - ・お店が少ない
- 根拠
 - ・小中高生の人数が少ない
 - ・商店街のお店を利用している人が少ない
 - ・遊具が減った
 - ・空き家が多い

理想を達成するための課題・解決方法

課題

- ・人が来ない
- ・費用がない
- ・あまり知られていない
- ・売上

解決方法

- ・ポスター(町)、SNSでの宣伝、チラシ(学校)
- ・費用が足りない場合はクラウドファンディングをする

具体的な取り組み

- ・買うものを決める
(かかる費用を計算する)
- ・内装を決める
- ・ポスター、チラシの内容を決める
- ・ルールを決める
- ・スケジュールを立てる
- ・宣伝活動をする
(加美町の小中高にポスターを配る、中高のインスタで宣伝)
- ・集客人数と収益を決める

達成目標

お化け屋敷

達成すること:

集客100人、収益10,000円

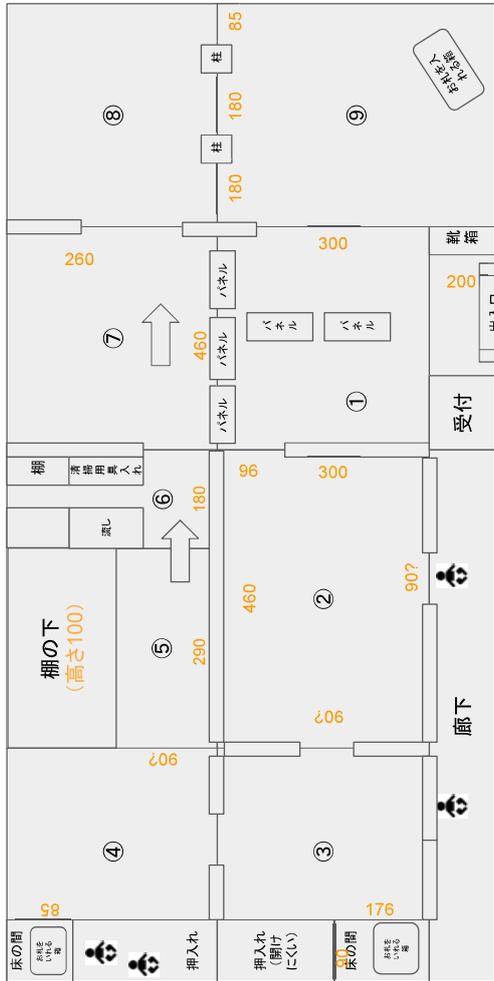
加美町初のお化け屋敷のイベントを開催する!!!

お化け屋敷のルール

- ・1組につき最大5人まで
(小学生2年生以下は大人と一緒に参加する)
- ・貴重品は自分で管理(受付の人に預けてもいいが責任は取らない)
- ・道順に従う(逆走しない)、走らない
- ・入る前にストーリーを読んでもらう
- ・懐中電灯は1組に1つ
- ・撮影は禁止
- ・お化け屋敷の中の物には触らない
- ・お化け屋敷の中での飲食禁止

スケジュール

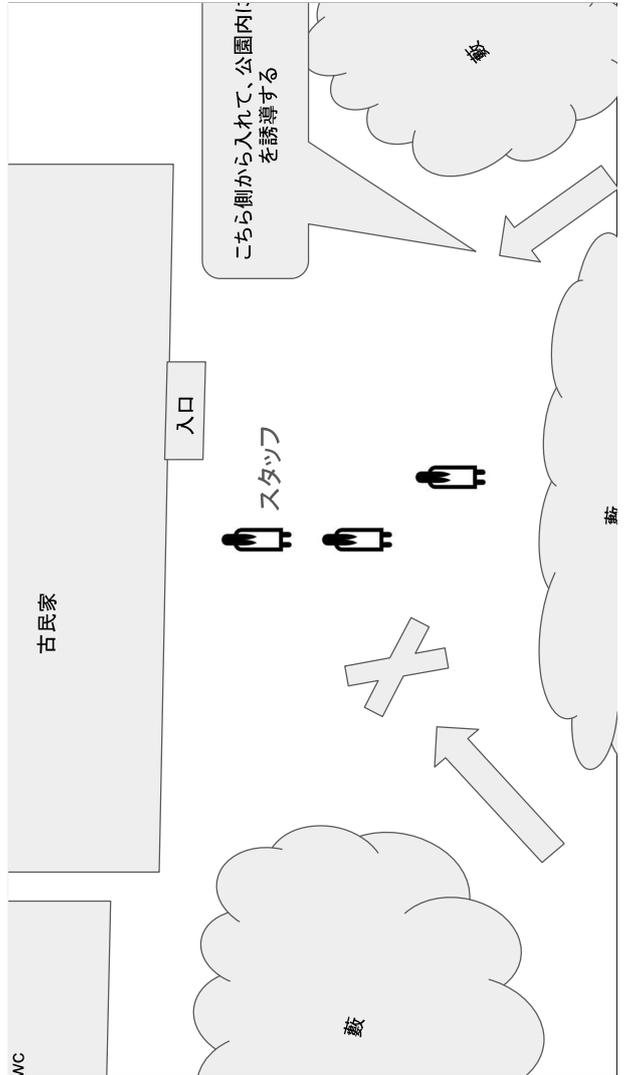
| 日時 | やること | 備考 |
|-----------|----------------|------------|
| 6月 | 買い出し、作成 | 学校のお金を借りる |
| 7月 | 開催準備 | |
| 8月 | 開催準備 | |
| 9月 | 開催準備 | |
| 10月26日(日) | ハロウィンイベントとして開催 | 13時から16時まで |
| 11月 | 集計 | |
| 12月 | 報告会準備 | |
| 1月 | 報告会 | |



※パネルは縦180cm×横90cm正方形(足をつけると高さおよそ200cm)

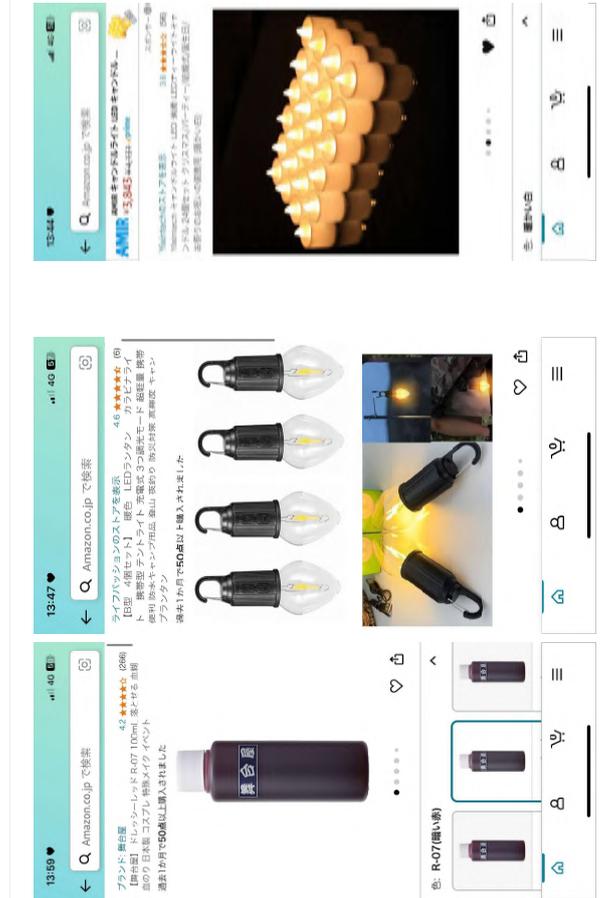
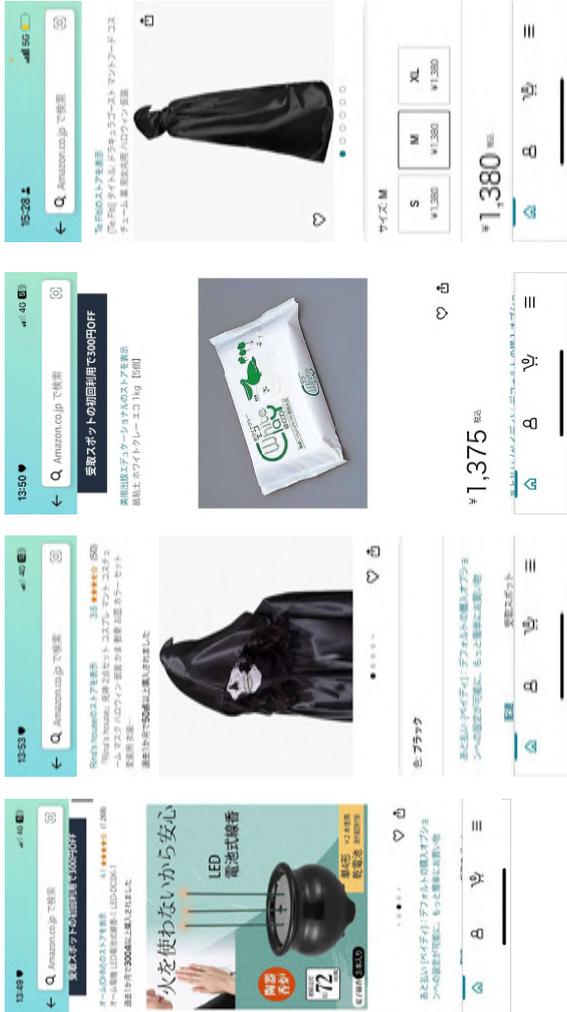
進捗状況表(9/26～)

| 月日 | それぞれの進捗の記録(何をしたか?) | 気づいたこと(必要なもの・提案したい) |
|------|--------------------|---------------------|
| 9/26 | お化け屋敷で使う道具の作成をした。 | お札を入れる箱の作成が必要。 |
| 9/27 | お化け屋敷で使う道具の作成をした。 | 首3つの作成が必要。 |
| 10/3 | お化け屋敷で使う道具の作成をした。 | 驚かし方を考える必要がある。 |
| 10/4 | 本番当日のそれぞれの動きを決めた。 | 待ち時間の工夫が必要である。 |

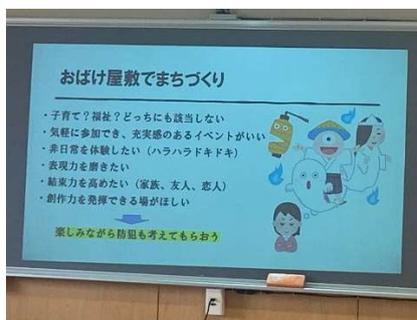
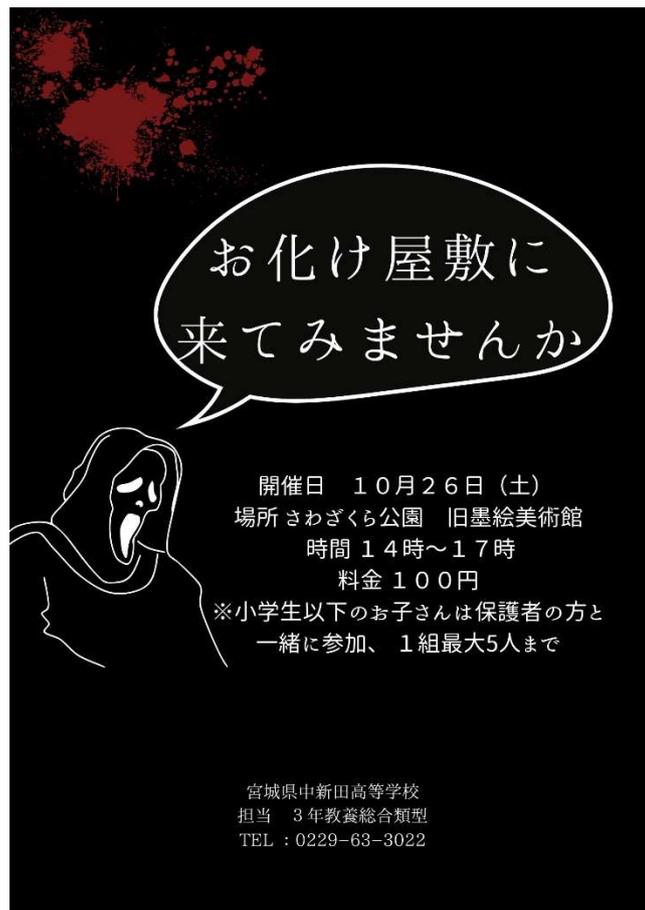


生み出したい成果(具体的に)

- ・お化け屋敷をすることによってさわざくらの知名度が上がり、さわざくらの利用者数が増える。
- ・加美町の課題でもある「町に賑わいが少ない」や「遊ぶ施設がない」が、お化け屋敷によって賑わいがでて遊ぶ施設も増えていく。
- ・加美町に関係のある物や町に貢献できるものを、お化け屋敷で利用して加美町を知ってもらう機会をつくって100年続く町作りにつなげていく。



作成したチラシ



○「仕事創りプロジェクト」を終えての生徒の感想より

- ・今回の仕事創りで私自身学んだことが沢山ありました。このプロジェクトで、実際に観光マップを作りました。その上で、アポ取りや電話対応、取材、取材するための資料作成、各年代にあった話し方や対応の仕方などを体験することができました。この体験したことによってこれから社会人になる前の準備期間と同様であると思いました。取材を通じて様々な地域の方々とお話ができたが、アポ取りを電話ですることがあまりなかったのが反省点であります。観光マップを作るにあたって、見る人の年代にあった文字の大きさや見やすさを重視しもう少し工夫できる点があるのではないのかなと思いましたが、これからまたこのようなマップの作成や企画を立案する際に今回の反省を活かして改善していきたいと思いました。観光まちづくり協会さんで様々な体験をすることができとても嬉しく思います。中々体験できないことや自分にはないものを見つけ身につけることができたことが一番よかったです。経験を踏まえて社会人ではもっと必要になってくるスキルや能力などがあるので、今のうちから身につけておきたいです。また、今回身につけたスキルは企画力や構想力だったのでこれを更にパワーアップしていけるように努力し続けたいです。これからも観光マップ以外に企画を立案し実際に体験してもらうことや、チームのみんなの一つの課題に対して取り組みなどを行っていきたくと思いました。チームで一つの事に対し取り組むことで仲間の良いところや自分にはないものが見えてくるのでこれからはこのような新しい自分に出会えるよう様々なことに挑戦し続けていきたいです。
- ・今年の地域産業を振り返って去年とは違って先生がじゃなくて自分たちの力でイベントを考えて進めたり企画を立てたりして授業に参加することができた。イベントを企画する上でいろいろな課題にぶつかることがあってうまくいかないところもあったけど、班の人と協力して問題に取り組んだり、先生にアドバイスをもらったりしながら取り組むことができた。実際にイベントを開催することで良かった部分もあったけどお客さんからの意見をもらわなかったら気付けないこともあって何が改善点なのかを考えたりして高校生のうちではできない貴重な体験を担ったと思った。これまでの企画作成やイベント準備、イベント開催を通して来て貰う人の視点から考えたり問題点を改善するために考えたりして他の人の視点で考えられることや班の人と協力して1つのものを完成させる力などを身につけることができた。
- ・地域産業の振り返りとして、これまでの取り組みを通じて地域の特産品や観光資源を活用した経済活性化が進み、新たな雇用や地域ブランドの向上を見ることができました。一方で、デジタル化の遅れや人材不足といった課題が依然として課題化されています。外部環境の変化に対応しつつ、地域資源の価値を最大化するため、産業の多角化や若者・移住者の活用など、さらなる戦略が求められたらと思います。今後は持続可能性を重視しながら、地域全体での連携を強化していくことが重要だと思いました。今後はボランティアやまた新たな活動をできればなと思います。
- ・地域産業ではカフェを企画し2回イベントを実施しました。イベントを企画することから始まって1年生よりも、企画能力が少し上がったと思います。イベントを成功させるために物や施設の準備、保健所への問い合わせ、チラシ作り、宣伝などやるべき事がたくさんある中で、班のみんなで分担し協力して最後まで行うことが出来たと思います。振り返りをし、報告書にまとめることにより、企画段階では見つけられなかった問題点や、もっとこうしたかったなど結構出てきたので報告書にまとめることができ良かったです。就職先で、自分で高齢者とのレクリエーションを考え企画することもあるので地域産業で身につけたことを活かしていきたいと思います。

学習指導計画

| 考査 | 月 | 学習項目(単元名) | 学習内容 | 押さえるべき事項 | 評価の観点 | | |
|--------|-----|---|---|---|-------|---|---|
| | | | | | ① | ② | ③ |
| 前期中間考査 | 4月 | 【地域創造プロジェクト】 (通年) | <ul style="list-style-type: none"> 導入 フィールド調査 仕事役割決め 営業スケジュール設定 | <ul style="list-style-type: none"> 個人でアイデア出し→魅力あるものを選定していきグループ化(個人事業になっても可) 既存産業や「100年つづくまちづくり」コンセプトに基づいて構想 | ○ | ○ | ◎ |
| | 5月 | | <ul style="list-style-type: none"> 準備、検証 | <ul style="list-style-type: none"> 「やってみたい」事業は部分的であっても掛け持ちを可とする 「常設」「イベント」が並列することを想定 | ○ | ◎ | ◎ |
| | 6月 | | | | ○ | ◎ | ◎ |
| 前期末考査 | 7月 | | <ul style="list-style-type: none"> プレ運営 (I期) | <ul style="list-style-type: none"> 「常設」「イベント」が並列することを想定 必要に応じて外部講師に協力を仰いだり、町の組織と連携を取りながら実施を進める | ○ | ◎ | ◎ |
| | 8月 | | <ul style="list-style-type: none"> ブラッシュアップ期 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて外部講師に協力を仰いだり、町の組織と連携を取りながら実施を進める・I期をふりかえり、専門性や検証を行う機関とする 日本政策金融国庫からの出張授業等も活用 | ◎ | ◎ | ○ |
| | 9月 | | <ul style="list-style-type: none"> II期 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて外部講師に協力を仰いだり、町の組織と連携を取りながら実施を進める II期のふりかえりを行う | ○ | ◎ | ◎ |
| 後期中間考査 | 10月 | | | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 11月 | <ul style="list-style-type: none"> III期 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて外部講師に協力を仰いだり、町の組織と連携を取りながら実施を進める III期のふりかえりを行う | ◎ | ◎ | ○ | |
| 学年末考査 | 12月 | | | ◎ | ◎ | ○ | |
| | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 事業(決算)報告準備・実施 | <ul style="list-style-type: none"> 発表に向けて準備 会の運営・実施も生徒主体で行う | ○ | ◎ | ◎ | |
| | 2月 | | | ○ | ◎ | ◎ | |

(5)3学年「地域スポーツ学Ⅱ」(2単位)

| 学習指導計画 | | | | | | | ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 | | |
|------------|-----|--------------------------------------|---|---|-------|---|---------------------------------|--|--|
| 考査 | 月 | 学習項目(単元名) | 学習内容 | 押さえるべき事項 | 評価の観点 | | | | |
| | | | | | ① | ② | ③ | | |
| 前期 中間考査 | 4月 | 1 地域スポーツ総合演習Ⅱ(班編制) | ・オリエンテーション ・班や所属先を決定する。 ①イベント班 ②企業インターンシップ班 (B&G海洋センター、加美スポーツ協会、790けんこうたいそう、加美町観光まちづくり協会等を予定) | 今後を見据えて主体的に探究出来る班を決定する。 | | ○ | ○ | | |
| | 5月 | 2 地域スポーツ総合演習Ⅱ(目標設定) | ・事業構想や目標設定を行う。 ・実習先での活動(Ⅰ期) | 今年度の目標を立て、実習先での活動内容について理解を深める。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 6月 | 3 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップ・スポーツイベント) | ・実習先での活動(Ⅰ期) ・加美町で行われる「ドラゴンカヌー大会」について、その競技ルールや準備等の運営の実際を理解する。 ・大会実施に向けた準備や宣伝広報等に携わり、大会を成功させるための工夫を考える。 | イベント班：加美町のスポーツイベントを参考に、企画・運営について学ぶ。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| 前期 末考査 | 7月 | 3 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップⅠ期・スポーツイベントⅠ期) | ・実習先での活動(Ⅰ期) ・大会当日の運営補助に関わり、スポーツを通じた地域交流の仕組みを理解する。 ・イベント参加者に対しアンケート調査等を実施する。 | イベント班：加美町のスポーツイベントを参考に、企画・運営について学ぶ。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 8月 | 3 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップⅠ期・スポーツイベントⅠ期) | ・加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 ・実習先での活動(Ⅰ期) | イベント班：加美町のスポーツイベントを参考に、加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 9月 | 3 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップⅠ期・スポーツイベントⅠ期) | ・加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 ・実習先での活動(Ⅰ期) ・Ⅰ期活動報告 | イベント班：加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 Ⅰ期活動報告を行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| 後期 中間考査 | 10月 | 4 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップⅡ期・スポーツイベントⅡ期) | ・実習先での活動(Ⅱ期) ・加美町で行われるスポーツイベント「SEA TO SUMMIT」について、その競技ルールやイベントの実際、意義を理解する。 ・イベント実施に向けた準備や宣伝広報等に携わり、大会を成功させるための工夫を考える。 | イベント班：加美町のスポーツイベントを参考に、企画・運営について学ぶ。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 11月 | 4 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップⅡ期・スポーツイベントⅡ期) | ・実習先での活動(Ⅱ期) ・イベント当日の運営補助に関わり、スポーツを通じた地域交流の仕組みを理解する。 ・イベント参加者にアンケート調査を実施する。 | イベント班：加美町のスポーツイベントを参考に、加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| 学年 末考査 | 12月 | 4 地域スポーツ総合演習Ⅱ(インターンシップⅡ期・スポーツイベントⅡ期) | ・加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 ・実習先での活動(Ⅱ期) ・活動報告会準備(Ⅱ期) | イベント班：加美町で持続可能な新たなスポーツイベントの立案・計画を行う。 企業インターンシップ班：実習先の活動を主体的に行う。 活動報告会に向けて準備を行う。 | ○ | ◎ | ◎ | | |
| | 1月 | 5 地域スポーツ総合演習Ⅱ(活動報告) | ・活動報告会準備(Ⅱ期) | 活動報告会に向けて準備を行う。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 2月 | 5 地域スポーツ総合演習Ⅱ(活動報告) | ・活動報告会準備(Ⅱ期) ・活動報告会 ・まとめ(振り返り) | 活動報告会に向けて準備を行う。 活動報告会の実施。 振り返りを行う。 | ◎ | ◎ | ○ | | |
| | 3月 | | | | | | | | |

「スポーツ総合演習(インターンシップ等)」について

2学年「地域スポーツ学Ⅰ」における地域スポーツ実践や地域スポーツイベント運営体験をベースに、加美町で持続可能な新たなスポーツイベントを企画立案する「イベント班」、加美町で実際にスポーツ分野において活動している事業先でインターンシップを行う「インターンシップ班」に分かれ、演習を行う。インターンシップ班の実習先、大まかなスケジュールは以下のとおり。

加美町スポーツ協会 (スポーツ振興、イベント運営)
790けんこう教室 (子ども、高齢者向けの体操教室)
加美町中新田B&G海洋センター (スポーツ振興、カヌー場運営)
加美町観光まちづくり協会 (観光振興)

| | |
|--------------|-------------------------|
| I期 (4～5月) | 事業構想、目標設定 |
| II期 (6～8月) | (14時間) 現場活動、イベント企画・開催準備 |
| | 9月4日 (中間発表) |
| III期 (9～10月) | (14時間) 現場活動、イベント企画・開催準備 |
| IV期 (11～12月) | 活動まとめ |
| | 1月8日 活動報告会 |



790けんこう教室

3121 早坂美玖 3127 松倉彩恵 3313 坂野星來

【参加した理由】

- ・様々な世代の方たちとコミュニケーションを取り、将来にいかしていき たいか
ら。
- ・認知度を上げていくための活動やイベント作成などにチャレンジしたい と思っ
たから。
- ・就職に向けて、高齢者の方との関わり方を学びたかったから。

【790けんこう教室とは】

高齢者向けの「転倒予防・健康教室」
子供向けの「幼児・児童レクリエーション運動」
「パーソナル ウォーキング」



幅広い年代の方々を対象
楽しく身体を動かかし健康を維持する教室



【これまでの活動内容】

- 5月 オリエンテーション
- 6月 体操教室に参加
鳴瀬児童館・公民館を訪問 現状調査
- 7月 運動イベントの開催についての検討



9月 中間報告会

運動遊び実技練習

10月 賀美石児童館・中新田児童館で運動教室

ニュースポーツ体験

宮崎公民館を訪問 活動内容の聞き取り



11月 運動遊び教室についての検討

中新田児童館で運動あそび教室を実施



【身についたこと】

- ・コミュニケーション能力
- ・イベント企画力
- ・傾聴力



【経験したことをどのように生かすか】

- ・コミュニケーション能力
→自分から積極的にコミュニケーションをとる
- ・企画力
→相手の要望をヒアリングする
- ・傾聴力
→相手の立場を考え、寄り添いながら話を聞く

地域スポーツ II 学活動報告

教養総合イベント班

スポーツ学のイベント班は何を行っているか

スポーツの果たす
役割に関する多角
的な考え方や及び実
践を育てる

地域づくりや生涯
学習の振興に貢献
できるような活動
を行う

加美町におけるスポ
ーツの文化的側面、地域
スポーツ振興の在り方
を学び地域に貢献でき
る素地を身につける

0. 報告を行うねらい

カヌーの魅力
を知ってもらう

イベントを広め
てもらう



何故カヌーのイベントを行ったのか

加美町で有名なスポーツの良さを
体験してほしいから



イベントの開催要項

⚡ 加美町カヌーバチバチ運動会

目的:カヌーの多様な魅力を感じてもらいカヌーへの関心を高める

開催日時:10月14日 10時から14時

開催場所:鳴瀬川、B&G海洋センター

開催種目:団体競技:カヌーリレー
個人競技:カヌー競漕、カヌー綱引き

2. イベント当日に行ったこと

1. 受付・会場準備
 - 8:30~会場設営、全体打ち合わせ
2. 運動会実施(午前の部)
 - 10:00~運動会開始
 - 10:00~12:00カヌー綱引き
3. 昼食・自由時間
 - 12:00~12:40昼食タイム(各自持参の昼食)

1. イベント開催の目的

健康促進

自然を感じてもらう

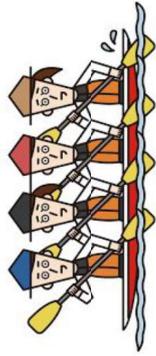


2. イベント当日に行ったこと

4. 運動会実施(午後の部)
 - 12:40~午後の部実施
 - 12:40~14:00カヌー競漕
5. 片付け・反省
 - 14:00~会場作業・反省・解散

3. 結果(SNS等の宣伝活動含め)

目標達成率
約50%



地域の人々との
交流ができた



4. 課題と改善点

安全管理

設備の管理

お客様への
対応

5. 参加者の声

安心した

自然を感じられた

リフレッシュできた

6. 今後の展開

カヌー
体験会

イベント
の企画

記録を
残す

健康促進に
つながる活
動をする

B&G・スポーツ協会

3226 松岡瑠伽 3229 柳川華楓 3123 早坂夢華
3107大泉壮 3112 小元琉聖



参加した理由

- ・カヌーでお世話になったB&Gの役に立ちたい。
- ・事務の作業はどんなことをするのか気になったから。
- ・2年生の頃のカヌー体験で大変お世話になったため。

やったこと

①業務

- ・ホームページ作成
- ・BGに用件がある人の電話対応
- ・BG塾の際に講義してもらおう各企業に企画書を届ける
- ・各小学校に宣伝のプリントを役場に提出した
- ・各小学校の参加賞の梱包作業(ノート)
- ・ドラゴンカヌーの旗作り



やったこと

①かみフェス企画

- ・鳴瀬川で行われるかみフェスの宣伝、オリジナルポスター作成
- ・かみフェスの会議に参加し、自分達が考えた企画やポスターを提案



やったこと



①かみフェス企画

- ・スタンプカードを準備
- ・各ブースを体験してスタンプを集める
- ・4ヶ所集めたら、お菓子すくいに挑戦できる。
- ・お菓子すくいの中に当たり券を入れ、景品(大きなお菓子)をプレゼント
- ・中高祭で使える焼きそば券を配布し文化祭へ集客につなげた

やったことⅡ

②かみフェス(成果)

- スタンプラリー配布枚数234枚
- 文化祭チケット配布枚数90枚
- お菓子すくい63名
- 当たり券14枚
- 中高祭で使える焼きそば券を配布し文化祭へ集客につなげた



振り返り

- ・当日も会場図がわかるチラシを各受付に置くと言われたときに案内しやすい
- ・各ブース受付場所が分かりづらい
- ・スタッフの休憩時間の確保
- ・ブースに荷物置きがあるといい



生み出した成果

- ・イベントを開催して沢山の人の人に参加してもらえた
- ・スポーツの触れもらい、魅力を知ってもらった
- ・地域の活性化に繋げ、B&Gについて知ってもらえた
- ・スタンプラリーの効果で色々なブースに周ってもらえた



大変だったこと

準備

- 1から企画の提案
- 会議に参加
- チラシの配布
- 交換商品と中高の接点



大変だったこと

当日

- 後片付け
- 子供に対しての接客対応
- 中高祭のチケットの説明
(同じことを何回も説明しなくてはならない)
- 準備したお菓子が少なかった
- イベントの内容を聞かれ、説明するチラシなどがな
かった。



何を学んだのか？

- 資料からExcelにまとめる能力であったりCanvaでチラシやスタンプラリーの制作方法
- イベントを1から運営、準備する難しさ
- コミュニケーション能力
- どのくらい部数を印刷するかの予測力



経験を通して後輩に伝えたいこと

1. いろいろなことを考えながら企画や役割決めをする
 2. 質問や自分の発言をする
- コミュニケーションをとって準備



B 「総合的な探究の時間」の取組 1学年「加美町研究」

1学年の「総合的な探究の時間」においては、地元加美町の産業・文化・人物等を取り上げ、地域社会の魅力を見直し、情報を発信していく学びを行った。個人の興味関心のあるものから、以下のテーマ班に分かれて活動を行った。特に「加美町の知名度を上げるために」という目標に向け、探究し、活動結果は動画等を作成し、YouTubeで公開した。

- ・あゆの里 加美町
- ・やくらいリゾートツアープラン
- ・食べ歩きスタンプラリー
- ・加美町カヌーの知名度を高めるために
- ・アルブル×ナカコウ かみ〜ごパン
- ・かみ〜ご (ちいたん☆)
- ・焚き火で語ろう
- ・かみ〜ご LINE スタンプ
- ・鳴瀬萩緑で加美町を広める
- ・加美町冬の大イベント「鍋まつり」と中新田高校の認知度を上げるには
- ・歴史・戦争 繋げ！カミガミの声